

佐藤先生、7度目の舞

3月18日に「二足のわらじ」に別れ
リサイタル

藤沢市片瀬の小学校教諭佐藤夏子さんが、三月十八日、同市民会館でフラメンコリサイタルを開く。十年間通った市立鶴沼小学校を最後にこの三月で定年を迎え、教員生活にピリオドを打つ。ダンサーと教師の二足のわらじを履き続けて四十年近く、人生区切りのステージだ。

佐藤さんがフラメンコを始めたのは、大学を卒業し川崎で教員になって間もなくのころ。スペイン舞踊家河上鈴子さんの舞台に感銘を受け、門をたたいた。「二つあるからこそ、やり通すことができ」と「ダンサー先生」の道を歩み、河上さんに十年、その後横浜の舞踊家田中美穂さんに七年間師事した。

一九八六年に夫を亡くし、翌年五月に創作フラメンコ「追憶」をメインプログラム

教員生活への終止符を機に4年ぶり7度目のステージを踏む佐藤夏子さんと、共演の舞踊家エル・トレオ

に初リサイタルを開く。その後も創作舞踊の公演を重ね、これが四年ぶり七度目のステージになる。

今回は、バルセロナ出身の舞踊家、エル・トレオら五人



のスペイン・アーティストを迎え「ファルーカ」「ソレアポルブレアリ」「シギリジャ」などを踊る。

午後二時開演。入場料三千円、中学生以下（三階席）無料。問い合わせは佐藤さん0466・27・4537。